農産FAX情報 第5号

令和7年7月15日
ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○収穫適期の判定

- ・子実水分30%以下が収穫開始の目安です。
- ・本年は乳熟期が6/30と平年並です。高温が続いており成熟期は早まることが予想されます。ほ場を観察し、仕上がりの早いほ場から収穫を行いましょう。

○収穫作業の留意事項

- ・コムギ縞萎縮病の拡大を防ぐため、未発生ほ場を優先して収穫してください。発生ほ場から未発生ほ場へ移動する際は、作業機を洗浄しましょう。

2 ばれいしょ

○疫病、夏疫病の防除

- ・疫病は18~20°C・降雨等による多湿条件、夏疫病は26°C前後で活発になります。天候の変化に注意し、予防的な防除を行いましょう。
- ・小麦収穫作業との競合や降雨が予想される場合は、ダブルインターバル薬剤（防除間隔14日間）を活用しましょう（FAX情報第3号）。

○軟腐病の防除

- ・本病は高温多湿条件で発生しやすく、倒伏等で茎葉が傷つくと発生が助長されます。気象経過・茎葉の状況に合わせて防除を行いましょう。

3 てんさい

○褐斑病の防除

- ・本病原菌の活動は25°C程度・湿度85%以上で感染しやすくなります。
- ・マンゼブ剤、銅剤を主体とした防除を実施しましょう。また、散布間隔は14日以下とし、上記の高温多湿条件となった場合は10日以下で防除しましょう。

○ヨトウガ、シロオビノメイガ

- ・ヨトウガは、被害株率50%に達した時点を目安として、防除を行ってください。
- ・シロオビノメイガは飛来性の害虫で、年次によって飛来時期や量が異なるため、ほ場を観察し、発生を確認した場合は薬剤散布を行いましょう（表1）。

表1 シロオビノメイガの防除例

薬剤名	希釈倍率 (倍)	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	系統名
ディアナSC	7500	2	前日	スピノシン
カスケード乳剤	4000	4	7	バングル尿素
マッチ乳剤	3000	2	14	バングル尿素

4 豆類

○アズキノメイガ類の防除

- ・ 本年は大豆で開花期が平年より 2 週間以上早まっており、小豆も大幅に早まることが予測されます。
- ・ 生育期の前進にともない、アズキノメイガの発生も早まる可能性があります。散布時期を逃さないよう、開花始の 7~10 日後から薬剤散布を開始しましょう（表 2）。

表 2 アズキノメイガの防除例（小豆）

薬剤名	希釈倍率 (倍)	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	系統名
ディアナSC※	5000	2	前日	スピノシン
プレバリンアブル5※	4000	2	7	ジアミド
カスケード乳剤	4000	2	7	ハソグ Ⅱ 尿素
グレーシア乳剤	3000	2	14	竹村ガリ

※浸透移行性があり、莢に潜った幼虫にも効果がある

○菌核病、炭疽病、灰色かび病の防除

- ・ 小豆、菜豆の灰色かび病 1 回目の防除開始目安は開花 1 週間後です。その後 7~10 日おきに 3 回実施しましょう。

○さび病対策

- ・ 本病は被害茎葉が感染源となり、多湿土壤中で生育初期の感染が多発するとされています。短期輪作ほ場や、過去に発生があったほ場は防除を行いましょう。

小麦の収穫が始まります！

◎水分・塩分補給で熱中症対策！！

◎適度な休憩・休息で、農作業事故防止！！！！